

野田物語

民俗学者・宮本常一 ⑤

人と出逢う旅を

重ねながら

宮本常一は、昭和14(1939)年10月から渋沢敬三が主宰するアチック・ミーゼムに所属し、全国各地を回りながら民俗調査を行っていました。昭和19(1944)年1月、戦局が悪化する中、一旦東京を離れて大阪へ戻り、友人の世話により、奈良の郡山中学校に教員として赴任しました。

自転車で農村を回りながら、農作物や肥料の流通経路を確認したり、北海道まで出向いたりもしますが、同年12月31日をもって退職しました。

翌年は東京へ出て、再び全国を旅します。そのころ、大蔵大臣をやめた渋沢敬三とも一緒に歩いたり、旅費を捻出するために村や学校で講演を開催しながら、農業技術の指導や聞き取り調査など、戦後の農村をくまなく歩きました。

さらに同20(1945)年春、篤農協会からの依頼で大阪府へ出向き、直接知事から、戦後の生鮮野菜の対策を担当してほしいと頼まれます。

一旦は断るものの、再び知事から呼ばれ、長い話し合いの末、戦争の終結までという約束で協力することになりました。

しかし宮本は、単に聞き取り調査だけではなく、離島や山村、農漁村を訪ねた時に、人びとの良き相談相手となり、農業経営や技術の指導にも多くの時間を割いていました。

宮本は「民俗学の旅」(講談社)の中で、

「…出あった人の数はおびただしいものであった。人に逢う旅であったといっている。そして私自身はよく調

査にいくとか調査するとか、調査地などといったところども、実は真正正銘のところから話を聞く時も「一つ教えて下さい。この土地のことについては(あるいはこの事柄については)私は全く素人なのでですから、小学生に話すようなつもりで教えて下さい」と言って話を聞くのが普通であった。私はその話が納得のできるものであれば他へもいつて披露した。それが私のように旅をする者の役目だと考えた。(中略)：私はみずから伝書鳩といつて、人びとの間をわたり歩いた」と自身の「役割」を書いています。

「塩の道」(講談社)の解説で田村善次郎は、いわき市の篤農家・高木誠一の言葉を引用し「うちには、随分偉い先生が来る。そして、この俺から資料を持ち帰り、本を出している。しかし、この俺に、これから村をどうしたら良いか、どうしたら暮らしが良くなるか、教えることができない。しかし、宮本先生は、ちがう。俺たち村人に夢を托していく先生だ」と紹介しています。

昭和31(1956)年、宮本は川間村を訪れます。

※文中敬称略(次号へつづく)



調査に訪れた伊豆大島で(昭和37年1月19日)/写真提供=周防大島文化交流センター

調査に訪れた伊豆大島で(昭和37年1月19日)/写真提供=周防大島文化交流センター

調査に訪れた伊豆大島で(昭和37年1月19日)/写真提供=周防大島文化交流センター

11月の休日当番医

休日当番医での診療時間
 外科・産婦人科 = 9時～22時 (ただし16時～19時は除く)
 内科 = 9時～16時 (19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
3日(土)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	野田病院(☎7127-3200)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
4日(日)	門倉病院(☎7124-5311)	はたのこどもクリニック(☎7123-7121)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)
11日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	大槻医院(☎7127-3424)	小張総合病院(☎7124-6666)
18日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	奥野循環器科クリニック(☎7123-7711)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
23日(金)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	野田南部診療所(☎7121-0171)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
25日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	丹保医院(☎7129-3557)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認をしてください。

急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時～22時まで(毎日)
 ▼歯科診療 = 9時～12時まで(休日)

▼先日、地区運動会で行ったに参加しました。次の日からは、体が筋肉痛となり、階段を上するのも一苦労▼自分では若いと思っけていても、体力は衰えてしまうものです。体力の維持には、日ごろからの運動が必要と痛感しました▼8面と10面でご紹介したオリジナル体操作成委員会のご協力でご案内した「えだまめ体操」は、介護予防を目的としていますが、だれでもどこでも気軽にできる体操です。私も今後は体力を維持し、年をとっても運動会に参加できるように、「えだまめ体操」を始めしてみようと思います(二)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり